北信教育事務所だより

～子どもに発し、子どもに還る　学校づくり・授業づくり～

令和7年2月 20 日　　第7号

各学校で１年のまとめに向けて，それぞれの取組の充実がなされていることと思います。本号ではこの１年間の確かな成長を振り返りつつ，次への一歩を踏み出そうとしている先生方をご紹介します。

初任者研修「１年次プログレス研修」１月１４日（火）

初任者研修のまとめとなる１年次プログレス研修が行われました。授業づくりや学級づくりに「願い」や「問い」をもって，これまでどのように取り組み，今どのような成果と課題が見えてきたかをグループで語り合ったり，「今やれることをやり切ったという積み重ねが，手応えや喜び，やりがいに繋がる」といった内容の課長講話を聞いたりすることから，目指す教師像を見い出す初任者の姿がありました。

１年間の成長について

この１年間で「こんなことができるようになった!!」「こう考えるようになった!!」

学級指導では初めての担任として，周りの先生の取組を真似しながらやっていましたが，後半は周りの先生を参考にしつつ，自分なりに工夫して取り組めるようになりました。（中学校）

「子供の姿をよく見ること」を大切にして4月スタートしました。常に意識するようにしていたため，子供の姿から「本当に伝えたいこと」が何なのかを感じ取れるようになってきたと思っています。（小学校）

今までつくったことのない革製品を採寸から行い制作しました。生徒たちが，もっとやってみたいと思うような授業や教材を用意するために，いろいろなことに挑戦してみたいと思うようになりました。（特別支援学校）

これから踏み出したい一歩

自分が目指す教師像に向けて取り組みたいこと

自分自身が生徒の必要感や困り感を敏感に感じ取れるようアンテナを高くしていきたい。そして，そこで感じ取ったことを授業や生徒とのコミュニケーションへいかしながら，生徒に寄り添い，歩んでいきたい。（中学校）

授業公開では，自分が気付けていない子供のよい姿を知ることができた。また，教材の価値の見直しもでき，自分にとって「学びを深める時間」と感じられた。自分の授業を振り返ることができるよい機会なので，来年度以降も行いたい。（小学校）

今までの経験や自分の型に固執することなく，特別支援教育について多くの知識や専門性を高めるために研修や周囲の先生方から学ぶ姿勢を大切にしていきたい。（特別支援学校）

この１年間，楽しいことも大変なこともあったかと思います。子供とかかわる中で多くを学んだり，周りの先生方に支えられたりして，大きく成長した先生方を，今後も応援しています！

初任者研修「２年次プログレス研修」１月１６日（木）

久しぶりに研修で再会した同期の姿に思わず表情が緩む…，初任者２年次プログレス研修はそんな和やかな雰囲気で始まりました。本研修では，自身の取組について仲間と語り合い，学校教育課長から次年度以降に向けたメッセージとなる講話を聴講することを通して，２年次の自己の歩みを振り返り，自己課題を更新していきました。

トークセッション感想

自分がやってきた取組について聞いてもらう，見てもらうことで，自分とは違った視点の意見をもらうことができました。あまり気付けなかった「子供が意欲的にやっている」「楽しんでやっている様子が伝わってくる」という言葉がとても嬉しかったです。継続して取り組んだ成果を実感できました。

３年目に向けた決意

自分自身が学校の中でやってみたいこと，今の自分に仕事で求められている力について考える時間をつくります。職員間，保護者，子供たちに自己開示と素直な気持ち，思いやり，共感の心をもって関係性を築き，よいチームをつくりあげていきたいと思います。チームマネジメントに関わる研修を受けて，リーダーのような役割も自信をもって果たせるようになりたいと願っています。

トークセッションでは，これまでの自身の取組について仲間から認めてもらったり，アドバイスをもらったりする様子がありました。そのような仲間からの言葉は，先生方の自信につながったようでした。課長講話では，これからより広い視野をもち，将来を見据えて教育に携わることと，そのためにも今後の自己研鑽が欠かせないことに気付いた参加者の姿がありました。基礎形成期の一層の充実に向け，その一歩を踏み出す研修となりました。

『初任者を支えながら，校内の同僚性を高め，共に学び合う』
長野市立櫻ケ岡中学校 初任研メンターチームの実践

初任者の教員としての資質能力向上を目指し，研修を支えるチーム体制の下，学校全体で役割分担と連携を密にし，研修の充実と同僚性向上に取り組む櫻ケ岡中学校の実践を紹介します。

櫻ケ岡中学校初任研メンターチームは，２名の初任者に対して Ａ・Ｂ のチームが各８名で構成され，リーダーと研究主任，特別支援教育や生徒指導の担当者の４名は両方に属しています。原則火曜日に位置付けられたメンターチームによる OJT 研修では，授業参観やその振り返り，座談会【テーマ：「こんな時どうする？」「人権的な配慮とは？」「部活動の運営の仕方」「苦労話を分かち合おう」「教師の働き方と Well-being」等】などを行ってきました。

左の写真は，初任者を含むメンターチームで「担任」「生徒」「保護者」役を割り振り，「**模擬三者懇談会（ロールプレイ）**」を行っている様子です。それぞれの立場でロールプレイをしてみて，感じたことを共有し合い，相手の立場を尊重した懇談の在り方について考え合います。これを３回繰り返すことで，初任者は異なる３つの立場の全てを模擬体験することができます。全体を見るメンバーは，俯瞰的に様子を把握して助言します。

【初任者を含む，メンターチームの声】

「今さら聞くことが恥ずかしいことを聞ける場でした。先輩方の経験談等，とても勉強になるものが多いです。」「研修で自分の取組を伝えることで，改めて自分の考えを認識することができました。」「チームのメンバーみんなで学び合うことができています。内容もバラエティ豊かにできました。」

初任者研修における，メンターチームの役割や働きについて【概要】

①初任者がメンターチームを含む校内教員の授業を参観し，各々のよさを基に自らの実践を振り返ります。
②初任者が学級経営や教科指導，生徒指導，事務処理等の資質能力を培うために，メンターチームを含む校内の教職員から指導を受け，自分自身の授業実践や学級経営等を振り返り，テーマをもって実践します。
③メンターチームによる OJT 研修で，初任者が自分の悩みや課題をメンターチームや研究部会，教科会等の場で相談しながら指導や助言を受けます。

メンターリーダーの **阿部 考彰 先生** に，初任研メンターチームの取組についてインタビューしました。

Q1. メンターリーダーとしてどのような願いをもって，校内の初任者研修を進めてきましたか？

A. 研修に関わるメンバーが見通しをもって研修を進められるようにと考えています。そのために，年度当初に研修の目的やシステムを丁寧に説明し，年間計画も明示してそれに沿って進めてきました。

メンターリーダー **阿部 考彰 先生**

Q2. チームとして初任者との関わりで大切にしていることは？

A. より幅広い研修となるようにチームが構成されていて，各メンバーの経験や強みが生かされ，それが初任者の成長につながるようにしたいと考えています。チームには初任者と同教科の先生もいるので，授業を想定して理科の予備実験を一緒にやってみたり，国語の学習カードを検討し合って共有したりといったことができています。

Q3. メンターチームを中心とした初任者研修によって，初任者はどのように成長しましたか？

A. 初任者の先生は，研修を重ねる毎にメンバーに積極的に質問しながら，研修内容についてより主体的に考えて実践につなげています。大変さの中でも教職のやりがいを実感しながら過ごしていると思います。

Q4. 初任者研修の中で，メンターチームの皆さんはどのようなことを感じていますか？

A. 日々忙しい中ですが，授業づくりや生徒指導などについて，チーム内の対話を通して研修を深め，互いのよさを学び合う機会になっています。もちろん，初任者を育てるというのが中心のミッションですが，チームのメンバーそれぞれに学びがあり，チーム力や同僚性の高まりを感じます。私も初任者の先生の生徒観やコミュニケーションのスタンスを聞いて，自分自身の在り方を見返す機会となりました。

OJT 研修により，初任者は，教職に関わる現実的に必要な知識や技能を習得し，理念や使命感についても考えることができます。加えて，研修に関わるメンバーにとっても，対話や協働を通して指導者や同僚としての意識の醸成や自身の実践力向上に役立つため，結果として学校全体の組織力が高まっていきます。OJT 研修を通して，初任者を育て，同僚性を高めている櫻ケ岡中学校の実践は，来年度の校内体制づくりの参考になりそうです。

教師が一歩踏み出すことで学級は変わる

～学び続ける教師として子供とかかわりたい～　長野市立寺尾小学校・山田先生の挑戦から

寺尾小学校　山田 大 先生

寺尾小学校５年生担任 山田 大 先生は，教育課程研究協議会で，特別活動の学級会の授業を公開しました。係児童の司会で，保育園児との交流会でやりたい「安全に仲良くできる遊び」を話し合って決める学級会でした。板書も児童が行い，山田先生が全体に向けて話す場面はほとんどありません。多くの子が発言する活発な話合いの中で，友の話をしっかり聞いて受け止め，自分の考えと比べ，他の考えと結びつけて話し合う子供の姿が印象的でした。参観者も，児童主体で進める学習の様子に感心し，寺尾小の先生方も５年生の成長ぶりに驚いていました。

実は，初めての学校訪問支援の際，山田先生は「話し合う時に，自己主張はするが人の話を十分に聞けず，皆で話し合うことがなかなかうまくいかない…。学級会として成り立たないかもしれない」といった不安をもっており，研究部会の皆さんも心配していました。しかし，山田先生は，この機会に学級活動を中核とした学級づくりへの挑戦を決意して，学級活動の参考資料を読み込み，２学期の構想を練り，準備しました。その時，どのような気持ちで「一歩」を踏み出したのか，山田先生に伺いました。

クラスをよりよい集団としていきたいと思っていた時に特別活動の授業者となり，正直大変だなと思いました。一方で，子供とかかわる教師として「教師自身が学ぶことが大事」という信念があるので，学級活動を学び，子供と一緒に学級づくりを頑張りたいと思いました。一人では無理だったかもしれません。一緒に考えてくれる研究部会の皆さんや助言いただける指導主事の方がいて支えになりました。

２学期が始まり「自分たちのクラス，自分たちが作っていく」を目標に，必要な係を子供が話し合って決めた学級活動をきっかけとして，共通の願いをもち共感的に話し合う雰囲気がクラスに生まれ，自分を表現できる子供が増えました。子供の提案による「２学期始め頑張ろう会」を学級会で話し合って実行できたことで，子供が達成感をもち，協力し合うことのよさを感じている様子が，自分の励みになりました。

教育課程研究協議会後，山田先生は，交流会に向けて役割を分担し，休み時間にも道具の準備をする児童の姿に驚いたそうです。交流会後，「園児さんに喜んでもらえてよかった」「グループの友達と協力し，困った時に助け合えた」といった振り返りが聞かれ，以前と比べ，子供たちが分け隔てなく関わり，自然に協力し合うようになったことも感じているそうです。今回の挑戦を通して，「子供とたくさん話し，様々な視点から新しい気付きがあり，子供を信じて任せてみようと思った。常に学び続け，学ぶ楽しさを子供と分かち合いたい」と語っていました。充実期にある先生の挑戦の姿に「教師が踏み出す一歩」の意義を学びました。

「第３回研究主任研修会」 令和６年 12 月 17 日（火）実施

「今回の研修会で掴（つか）んでいただいたこと」は

北信全域から 108 名参加！

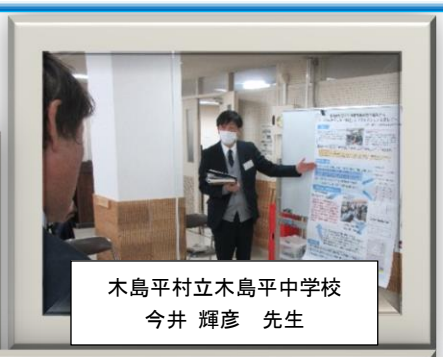
○ 前回の研究主任研修会で決めだした「明日から自校で取り組みたいこと」についての「今」を共有

○ 「今年度残り３か月で取り組むこと」「次年度につながる研究のまとめ」へのさらなる一歩の確認

ポスターセッション

「子供を主語にした学び」や「探究する授業」について，５校の研究主任から各校の実践の様子をポスターにまとめて説明していただき，活発なセッションが行われました。

長野市立川中島小学校
牧内 自勝　先生



木島平村立木島平中学校
今井 輝彦　先生

中野市立中野平中学校
黒岩　誠　先生

須坂市立旭ケ丘小学校
雪入 さやか　先生

信濃町立信濃小中学校
伊藤 真紀　先生

グループワーク

前回の研修会を受けて，各校で取り組んだ具体について，グランドデザインと照らし合わせて語り合い，今年度のまとめとなる取組をグループで明らかにしていきました。

参加者の声

昨年は研究主任のことは全く分かりませんでしたが，今年一年やってみて“こうしてみたい”を管理職や先生方に提案できるよう振り返っていきたいと思いました。

３人の先生方の発表をお聞きしましたが，どの先生方も研究主任としての悩みや葛藤がありながらも“動いているな”と感じました。いつもこの研修会で学ぶたびに，自分が，動いているか，止まったままなのか，を問い直されるような思いです。３学期に“もうひと動き”したいと思いました。

ポスターセッションでは，参会者が自身の願いや問い等に基づいて参加するブースを選択することで，主体的に考える様子が見られました。また，グループワークで自校の研究推進の一歩を語り，聴き合うことから，自校の研究推進の強みと課題を明らかにしていき，これからの取組を決めだしていく姿がありました。「自校に戻ってこれをやりたい」という思いがあふれる研修会となりました。

研修会終了後の研究主任の先生方のまとめには，ポスターセッションやグループワークを通して学び取った内容や，今後の研究推進への願いがあふれていました。今回は，飯山市立城南中学校研究主任の今井悠太先生の学びやそれを踏まえた取組と今後の展望について，学校にお伺いしてお話をお聞きました。

◇ 研究主任研修会を経て “次の一歩” を踏み出す

学校教育目標：「Get your dream -夢をつかもう-」
研究テーマ：「友とつながり主体的に学ぶ～問いと振り返りと共に学ぶ～」

～ 飯山市立城南中学校　今井悠太先生 へのインタビュー ～

【 第３回研究主任研修会での学びは？ 】

自校の取組と親和性のある実践の報告や助言をいただけたことが大きかったです。校内の研究会のもち方については，「カフェ形式で行う」「短時間で繰り返し位置付ける」「テーマを選んで語り合う」など，堅苦しくならず，先生方がゆるやかに**つながる場づくりを大切に**している点がとても参考になりました。どの学校も，研究テーマから一本筋の通った研究をされていて，**本校も今よりも少し前進できそう**な手応えもつかめました。

研究主任　今井悠太先生

【 城南中学校のこれまでの取組と成果は？ 】

１つ目は，**自主的な授業公開**です。研究テーマを基に授業づくりの重点を焦点化したり，校務支援システムの掲示板を利用して公開授業に関する情報共有を容易にしたりすることで，先生方が気軽に，そして前向きに授業の公開や参観ができるような体制づくりを心掛けています。

２つ目は，**授業で大切にしたいことを全校で共有**することです。本校が大切にしたい学びを先生方はもちろん，生徒とも共有できるよう，授業に関わるアンケートを年間複数回実施しています。

取組の成果はいくつかありますが，先生方が**生徒の学びの姿を語り合ったり，**どの教科にもいかせる**授業の工夫を情報交換したりする姿が増えている**ことは大きな成果です。

【 研究主任研修会後の取組は？ 】

今年度のまとめと次年度の構想を進めています。他校の研究でも大切にされていた「先生方の思いや願いを共有する場づくり」と，本校が大切にしている「生徒と先生方で共に学びを創る」ということを意識して，研究テーマをブラッシュアップしたいと考えています。生徒アンケートを通して生徒の実態をとらえ，それを次年度のテーマにつなげていきたいです。

そのために，まずは各教科主任の先生方から次年度の研究テーマの方向性について意見をいただき，**見通しを共有**しました。そしてより多くの先生方が関わりながら研究テーマを決め出していけるよう，２週に１回，10～15 分程度のショートの研究会を開き，**対話を繰り返しながら**テーマについて検討する時間を設けるようにしています。

【 研究主任としてのやりがいは？ 】

まず，授業づくりについて，**先生方のよさや熱意にふれられることが嬉しい**です。研究主任として，それらを広げたりつなげたりするために何ができるか，悩むこともありますが，これまでの取組を通して先生方同士が学び合う姿が見られたり，**その成果が生徒に還っている**と感じられたりする時がとても幸せです。

今井先生は，自校の取組と研究主任研修会での学びを重ね，“次の一歩”を具体的に踏み出しています。「取組を振り返ると，試行錯誤の連続だった」とのことですが，インタビューからは，グランドデザインの具現に向け，研究主任として全校の生徒や先生方とつながりながら研究を推進していることが伝わってきました。“生徒も教師も共に学び合える場を大切にしたい”と熱く語る今井先生と城南中学校の先生方の実践に学びたいと思います。

生涯学習かわら版　北信地区活動だより

～「人・つながり・地域」づくりを通したウェルビーイングの実現～

北信教育事務所生涯学習課　担当：指導主事　越田　真二

スポーツ指導者養成講座「わくわくスポーツセミナー」の報告

第1回(9月23日)

「障がいの有無に関わらず誰もが一緒に楽しめる運動・スポーツ指導 ～アダプテッド・スポーツの理解と実践～」

講師 東海大学体育学部教授 内田 匡輔 さん

障がいのある子が、**どんなことに困っているのか把握**し、**どうアダプテッドしていくか**。

知らない競技ばかりでいろんなものがあると思いました。**工夫次第でどんな人でも参加できるのが良い**と思いました。（感想より）

「アダプテッド」するってどういうこと？ ➡障がいのある人も安心して楽しめるための「環境構築」です！

「もの」の工夫
車いすでも扱いやすいボールを使ってみよう。

「人」への働きかけ
障がいについてクラスみんなで学び合おう。
支援員とも連携しよう。

「ルール」の工夫
達成課題を子どもの特性に応じて変更したり分かりやすくしたりしてみよう。

第2回(2月1日)

「幼少期の体つくり、動きつくり！
発達段階に応じた運動遊びの案内人になろう！」

講師：長野日本大学小学校体育専科 渡邉 真也 さん

「〇〇あそび」といって子どもにさせていることは、子どもにとっての「あそび」になっていないかもしれない。

（感想より）体を動かすことにとらわれすぎず、**心を動かすことを心がけたい**と感じました。最初にあった「運動好きにするより**運動嫌いを作らない**」という言葉にも共感しました。

「運動遊びの案内人」とは

遊びは自らが発見する感動の体験！「教える」のではなく「案内する」ことが大切。それには「やってみたい！」「なってみたい！」という遊びのきっかけ（種まき）が重要です。ぜひ、何かを教える人ではなく、子どもの心を懸命に動かす人（案内人）になりましょう！

ニュースポーツや障がい者スポーツなどを紹介します。お気軽にお問い合わせください。

■■お問合せ先■■
北信教育事務所生涯学習課　〒380-0836 長野市大字南長野南県町686-1　担当：越田
Tel：026-234-9552　E-mail：hokushinkyo@pref.nagano.lg.jp

北信教育事務所HP